

オリバーちゃんに抱われてきた犬たちはいきいきと生活している



と、二千万円もの準備金はすでに振った。愛犬も二年後にはこの世を去る。金を使って有料の施設に入った二人。しかし、つたが、苦業を共にし他の入居者から、長年てきた愛犬の老後を、

efuse Kans a i)を発行し、動物愛護に対する地道な啓蒙活動を行っている。

一般的に、最も家

しかし、希望を離れなければならな者が訪ねてきてい状態になり、飼うこも、必ず家族でとが困難になります。面接を行い、家族全員で、という気庭の状態、スペ持ちがなければ...」とース、だれが中オリバーさん。心となって世話メス犬にはほとんどをするのか、ま避妊手術を施しておた、動物と家族り、今年に入って新しい相性など、細い飼い主に引き取られかく話し合ってた犬は六十匹。年間で結果を出す。は百五十〜二百匹にもなる。

犬や猫の寿命は最近では十五年ほどに延び、その間、家族の一員として生涯飼ってもらえるかどうかを判断するのである。

現在、イギリスからの寄付で新しい事務所建設が進んでおり、この夏には完成する。新しい犬小屋や風呂をはじめ、ここを訪れる人たちにさまざまな情報を提供するための施設も設けることにしている。

ただ単に「かわいい、かわいい、だからというだけでは動物は飼えない。動物たちも人間と同じかけがいのないたつた一つのいのちをもっている。動物好きの人が、その無責任な飼い方から動物嫌いを生み出しているという状況の中、飼う以上は動物のいのちを全うさせるといふ厳しさが必要だ。

一人ひとりの動物に対する認識を深めていくことが、動物と人間が共存できる社会につながるのではないかと思う。

生の伴侶として 存できる社会へ

連れ添った愛犬がいし静かに安心できる環境められ、人間不信に陥のなかで過ごさせてやっってしまったことに氣れたことに、二人は、り、引き取った犬五十づいた二人は、愛犬がお金にも換えがたい滴匹をはじめ、猫、ヤギ、周囲を気にせずのん足感を覚えたという。小馬、鶏などが広い敷大とのびりと人生を送るよ甲斐さんと同じく野地内でいきいきと生活きた老うにと、再び故郷の雪瀬町に住むエリザベスしているが、犬や猫を国に戻ることを決心し・オリバーさん。動物飼いたいという人に讀を寒いたのである。物を幸せにすること、るというのもオリバーさんの大きな目的の一つ。

一方的な契約破棄を目的に、機関紙A R K (Animal R っ。

真宗用品専門店

木村法衣仏具店

〒600 京都市下京区六条通堀川東入
TEL075-351-5909 FAX365-0508
日 祝日 夜間専用 075・573・2377

庭にいる時間が長い母親が動物の世話をできること。子供が飼いたいといつても、すぐに飽きてしまい、やがては進学、就職などで家